

ドイツ語の慣用表現における継続の概念について

野 上 さなみ

1. はじめに

アスペクトが文法範疇として確立していないドイツ語においても、その概念を積極的に表現する方法は存在する。たとえば、動詞の *Aktionsart* (動作態様) と *gerade* (ちょうど・目下) のような副詞を組み合わる方法等により、動詞の形態そのものには変化をもたらすことなく不完了アスペクトの概念を表現する、あるいは他範疇の解釈変換を行うなどの方法で、ドイツ語においてもアスペクトの概念は断片的に表現されている(野上:2008)。また、英語の進行形に相当するドイツ語の形式として、DUDEN (2009: p. 427) は *ich bin beim Aufräumen* (私は片づけをしている)、*ich bin am Überlegen* (私は思案中である) などのように、前置詞と名詞化された不定詞を組み合わせた構造を紹介している。しかし、この形式に組み込むことができる不定詞には制限があることに加え、標準的な書きことばよりも話しことばにおいて使用されること、そして、この構造が英語の進行形ほどには十分に文法化されていないことも同時に指摘している¹。

本稿²では、不完了アスペクトの一つと捉えることができる継続の概念に着目し、名詞化された基本動詞を含む機能動詞構文の中でも、この「継続中」の概念を表現するものを主な分析対象とする。上記で挙げた例のような、基本動詞の不定詞を名詞化したものを組み込んだいわゆる進行形式は、このたびの考察の対象とはしない。機能動詞構文に含まれる機能動詞・前置詞の選択、さらに継続概念の語彙化イメージなどの考察を通して、ドイツ語での不完了アスペクトの表現における特徴の一端を明確にすることが本稿の目的である。用例の主な出典は、独和大辞典第2版(2000)とDUDEN(2009)である。

2. 語彙化の度合い

継続を表現する機能動詞構文の前置詞句に組み込まれる名詞には、その派生源となる基本動詞が存在することが多い。この基本動詞だけでも、①b・②b・③b のように継続の概念を表現することは可能である。「基本動詞」は *Basis Verb* を略して *BV* と記す：

- ① a. Meine Nichte steht^V seit letztem Jahr im^P Dienst^{NP} der Stadt.
b. Meine Nichte dient^{BV} seit letztem Jahr bei der Stadt. 私の姪は昨年から市に勤めている。

- ② a. Der König ist^V seit heute morgen auf^P der Jagd.^{NP}
 b. Der König jagt^{BV} seit heute morgen. 王様は今朝から狩りをしている。
- ③ a. Ich bin^V schon lange in^P ärztlicher Behandlung.^{NP}
 b. Ich werde schon lange vom Arzt behandelt.^{BV} 私はもう長いこと医者にかかっている。

機能動詞構文では特定の語彙の結びつきが固定化されているため、使用する語を任意で入れ替えることはできない。LEISS (2000:p.209)は、④a.の構文 *in Erwägung ziehen* (検討する)に含まれる前置詞句 *in Erwägung* では、色々な冠詞の交替が認められないことを示し(④b.)、*in Erwägung* という前置詞句そのものは、分析的動詞構造における「語彙的要素」を表しているにすぎない、としている³：

- ④ a. Sie zieht eine Kündigung in Erwägung. 彼女は解雇の告知を検討した。
 b. *Sie zieht eine Kündigung
 {in die Erwägung / in eine Erwägung / in Erwägungen / in die Erwägungen}.

つまり、使用される語のつながりが固定化されることで、構文全体がある程度、「語彙化の進んだ状態」にあると考えることができる。しかし、構成要素の交替が全く認められない構文がある一方で、*in/im Umlauf sein* (流通している)のように前詞句内に定冠詞があっても無くても良い例や、{*an/bei/auf/in*} *der Arbeit sein* (仕事中である)のように共起する前置詞に選択肢がある例や、*in Betrieb sein/bleiben* のように機能動詞に選択肢がある例など、その形態が完全に固定されているとは言えないものもみられることから、構文によって語彙化の度合いには差異があると言えるであろう。

3. 主語名詞句の意味論的性質と機能動詞・前置詞の関係

この節では、構文で用いられる機能動詞や前置詞の選択が任意なものではなく、共起する名詞句の意味論的性質と連動していることを確認していきたい。本稿で扱っている構文に現れる機能動詞は *sein* (存在する)、*stehen* (立つ)、*bleiben* (留まる)、*liegen* (横たわる)、*sitzen* (座る) の5種類である。DUDEN (2009:p.423)は、機能動詞 *sein*, *stehen*, *bleiben* を用いて作られる機能動詞構文の主語は、典型的な主体ではなく客体に似た役割を担っていると述べており、⁴ 主語名詞句の意味論的性質が機能動詞の選択に何らかの影響を及ぼしている可能性が示唆されている。また Van Pottelberge (2004: p.198)は、不定詞を用いた進行形式において、基本動詞が叙述する出来事に携わる項の意味論的性質に応じて、不定詞と共起する前置詞が異なることを指摘している⁵。そこで、基本動詞に関わる名詞句の意味論的特性が、継続概念を表す機能動詞構文の要素選択にどのような影響を与えているのかを検証していきたい。

名詞句の意味論的性質の分析にあたって、まず基本動詞の自動性・他動性を基準に機能動詞構文を二分類した上で、典型的な主題役割に基づいて「できあがる構文の主語名詞句」を主体 (AG)

と客体 (PAT) に分類した。この区別にあたっては、他動詞の主語を AG、直接目的語を PAT、自動詞の主語については、完了助動詞として *haben* を選択すれば AG、*sein* を選択すれば PAT という分類を基本としつつ、DOWTY (1991) が提案する「Proto-Agent および Proto-Patient の性質」も考慮して決定した。

その結果、機能動詞構文の主語名詞句の意味論的性質は表1に示す4タイプに分類された。この分類を利用しながら、主語名詞句と基本動詞・機能動詞・前置詞選択の関係についての考察を進める。

表 1: 機能動詞構文の主語名詞句が担う4つの意味論的性質と構文例

| | | | |
|------|-----|----------|---|
| 基本動詞 | 自動詞 | AG (主体) | ❶ <u>Die Kinder</u> sind in Fahrt. |
| | | PAT (客体) | ❷ <u>Die neuen Münzen</u> sind seit einem Monat in/im Umlauf. |
| | 他動詞 | AG (主体) | ❸ <u>Er</u> ist auf der Suche nach einer Stelle. |
| | | PAT (客体) | ❹ <u>Der Fahrstuhl</u> ist in Betrieb. |

3.1 機能動詞 *bleiben*

全8例のうち、5例は❹で占められており(⑤a.)、3例は❷となっている(⑤b.~d.):

- ⑤ a. Das neue Gliederungsprinzip^{PAT} bleibt in Anwendung. 新しい章立ての原則は使われ続けている。
 b. Die alte Uhr^{PAT} bleibt im Gang. その古い時計は動き続けている。
 c. Die Party^{PAT} bleibt in Schwung. パーティーは活気が続いた。
 d. Die Währung^{PAT} ist seit Monaten in/im Umlauf. その通貨は数か月前から流通している。

3.2 機能動詞 *stehen*

全15例のうち、❹が8例を占め、客体としての性質が強い名詞句が主語となる傾向が高いことは確認できる:

- ⑥ a. Er^{PAT} steht im Verdacht, einen Mord beging. 彼は殺人の疑いをかけられている。
 b. Man verdächtigte ihn^{PAT} einen Mord zu begehen. (人は)彼に殺人の疑いをかけ(て)いた。
 ⑦ a. Die Grenze^{PAT} steht unter Beobachtung. 国境は監視されている。
 b. Man beobachtet die Grenze^{PAT}. (人は)国境を監視している。

⑥a. *im Verdacht stehen* (疑われている)は、⑥b. に示すとおり、基本動詞 *verdächtigen* で言い換えることが可能である。この動詞から直接派生する名詞は *Verdächtigung* (疑うこと)であるが、機能動詞構文では *Verdacht* (容疑・疑惑)が使われている。⑥a.の意味を文字どおりに組み立てると「彼が疑惑の中に立っている」ことが述べられており、ここから「疑われている」という継続の概念を比喩的に導き出す形となっている。⑦では基本動詞 *beobachten* から直接派生する名詞 *Beobachtung* が

構文にも用いられ、「国境は監視の下に立っている」という具体的な位置関係叙述から「監視されている」という継続概念が比喩的に解釈される仕組みになっている。

次の例では、3つの基本動詞の語彙的な意味に「議論」という共通性があり、基本動詞の直接目的語名詞句が機能動詞構文の主語となることに加えて、選択される前置詞と機能動詞も共通している。3つの基本動詞の動作態様はいずれも継続相なので、名詞化した基本動詞に機能動詞を組み合わせた複合的な形式を無理に用いなくても、⑨にあるとおり基本動詞単独で継続の概念を表現することは可能である：

- ⑧ Die Maßnahme^{PAT} gegen die globale Erderwärmung *steht schon lange* a. zur Debatte.
b. zur Diskussion.
c. zur Erörtern.
地球温暖化対策は長いこと{a. 討議 / b. 討論 / c. 論究}されている。
- ⑨ Man a. debattiert
b. diskutiert
c. erörtert schon lange die Maßnahme^{PAT} gegen die globale Erderwärmung.
(人は)地球温暖化対策を長いこと{a. 討議 / b. 討論 / c. 論究}している。

3.3 機能動詞 *sein*

*sein*を機能動詞とする構文 28 例のうち約 1/3 は④である。これらの基本動詞は他動詞であり、その他動詞が表す出来事において、主語名詞句が引き起こす作用や変化の影響の被り手となる直接目的語名詞句(典型的 PAT)が、機能動詞構文の主語となる：

- ⑩ a. Die ganze Stadt^{PAT} *ist in Bewegung*. 町全体が動いている(町中が総出だ)。
b. Der Bürgermeister *bewegt* die ganze Stadt^{PAT}. 市長が町全体を動かしている。
- ⑪ a. Das Kind^{PAT} *ist bei Dr. X in Behandlung*. その子は X 医師の治療を受けている。
b. Dr. X *behandelt* das Kind^{PAT}. X 医師はその子を治療している。
- ⑫ a. Der Fahrstuhl^{PAT} *ist in Betrieb*. エレベーターは作動中である。
b. Man *betreibt* den Fahrstuhl^{PAT}. (人は)エレベーターを動かしている。
- ⑬ a. Die zweite Auflage^{PAT} *ist im Druck*. 第 2 版は印刷中である。
b. Man *druckt* die zweite Auflage^{PAT}. (人は)第 2 版を印刷している。

自動詞を基本動詞とする構文は約半数を占め、主語名詞句の主体性が強いグループ①(⑭)と客体性が強いグループ②(⑮)の両方が見られる：

- ⑭ a. Ich^{AG} *bin im Zweifel*, ob ich den Vertrag unterschreiben soll. 契約書に署名すべきか迷っている。
b. Ich kann nicht nach Hause kommen, weil ich^{AG} *im Dienst bin*. 私は勤務中なので帰宅できない。
- ⑮ a. Die neuen Münzen^{PAT} *sind seit gestern in/im Umlauf*. 新しい硬貨が昨日から使われている。

b. Das Wasser im Topf^{PAT} ist schon lange in Wallung.

鍋の湯はもう長いこと煮えたっている。

3.4 前置詞 *auf* の選択

sein を機能動詞とする構文の圧倒的多数は前置詞 *in* を選択するが、前置詞 *auf* を選択しているものが 7 例あるので、これらに共通する特徴は何なのか考えてみたい。このうち他動詞を基本動詞とする 1 例は③に分類され、基本動詞が自動詞・他動詞両方の用法を持つ残り 6 例については、①と③のいずれに分類されるかは明確ではない。まず、基本動詞が他動詞用法しか持たない例を⑩で示す：

⑩ a. Er^{AG} ist auf Besuch in Berlin.

彼はベルリンに滞在中だ。

b. Er^{AG} besucht Berlin.

彼はベルリンを訪問している。

前置詞 *auf* を使う構文の基本動詞 *besuchen* は他動詞用法しか持たないが、同様に他動詞を基本動詞とする構文として 3.3 の⑩～⑬で紹介した例とは異なり、機能動詞構文の主語となる名詞句 *Er* は、基本動詞においても主語名詞句として現れており、その意味論的性質はあくまでも典型的 AG となっている。

次に、自動詞・他動詞の両用法を備える基本動詞とそれをもとに作られる構文例を⑪に示す：

⑪ a. Meine Frau^{AG} sollte jetzt auf/in Arbeit sein.

妻は現在仕事中的はずだ。 (*arbeiten*)

b. Der König^{AG} ist auf der Jagd.

王様は狩りをしている。 (*jagen*)

c. Er^{AG} ist auf der Suche nach dem Täter.

彼は犯人を探している。 (*suchen*)

ここで機能動詞構文の主語名詞句となるのは、行為主体として別の対象に変化・影響をもたらす立場にある AG であって、変化・影響の被り手 PAT ではない。たとえ基本動詞が他動詞であるとしても、機能動詞構文全体の主語となるのは、基本動詞において直接目的語として現れる PAT ではなく、主語として現れる AG であることは⑫で確認できる：

⑫ a. Meine Frau^{AG} arbeitet den Anzug.^{PAT}

妻は背広を作っている。

b. Der König^{AG} jagt Füchse.^{PAT}

王様はキツネ狩りをしている。

c. Er^{AG} sucht den Täter.^{PAT}

彼は犯人を探している。

ここまでの 4 例を見る限り、機能動詞構文で前置詞として *auf* を選択するポイントとなっているのは、構文全体の主語として現れる名詞句が備えている AG としての性質である、という仮説を立てることができる。

残り 3 例では、移動を表す *fahren* (走行する)、*fliegen* (飛行する)、*fliehen* (逃げる) が基本動詞

となっており、これらはいずれも自動詞・他動詞の両用法を備えている：

- ①9 a. Ich^{PAT/AG?} *bin auf großer Fahrt.* 私は快走中である。
b. Ich^{PAT/AG?} *bin auf dem Flug nach Berlin.* 私はベルリンに向けて飛行中だ。
c. Die Gefangenen^{AG} *sind auf der Flucht.* 囚人たちは逃亡中である。

基本動詞が自動詞であると仮定した場合、主語名詞句は「場所移動」という一種の状態変化の被り手 PAT であると考えられる。自身が運転・操縦等を行うことなく、ただ運んでもらうだけというケースならば、なおさら PAT として捉えるのが適切である。しかし同時に「動きがある」こと自体が Proto-Agent の性質の一つであることから、AG としても捉えられる。「移動」の概念には、このように AG/PAT の二面性がある。

また、例②0のように基本動詞が他動詞であると仮定しても、例文②0a.と b. の機能動詞構文の主語名詞句 *ich* は、移動の引き起こし手であると同時に、自分自身が移動の被り手でもあるため、AG/PAT 両方の側面を持ち合わせていることには変わりがない。そのため、機能動詞構文 *auf der Fahrt sein* および *auf dem Flug sein* の主語となる名詞句が AG と PAT のどちらなのかは依然として不明瞭なままである：

- ②0 a. Ich^{AG/PAT?} *bin auf großer Fahrt, weil ich*^{AG} *gerade mein neues Auto fahre.*
僕は快走中だよ、だって新車を運転しているのだからね。
b. Ich^{AG/PAT?} *bin auf dem Flug nach dem Katastrophengebiet,*
weil ich^{AG} *Medikamente fliegen muss.*
私は、医療品を空輸せねばならないので、災害地に向けて飛行中です。

ただ、機能動詞構文 *auf der Flucht sein* に現れる名詞 *Flucht* (逃走・脱走) の直接の派生源となっている基本動詞は、その意味から判断して、あくまでも自動詞用法 (逃げる) であって、構文の一部となっている *Flucht* が示す意味とは明らかにニュアンスが異なる他動詞用法 (何かを回避する) であるとは考えにくい。これにならって考えるならば、同様に移動を表す動詞 *fahren* と *fliegen* の場合にも、機能動詞構文に組み込まれている *Fahrt* と *Flug* は、やはり自動詞用法から派生した名詞であると仮定すべきであろう。その結果、①9a. ~ c. が共通して備えている AG の性質は「動きがある」という1点に集約される。

3.4 の考察をまとめると、機能動詞構文において前置詞 *auf* が選択される際、主語となる名詞句の意味論的性質に関して、どの例にも共通する決定的な要因があるわけではないが、少なくとも「AGとしての特性のいずれか」を備えている必要がある、ということができる。

4. 継続概念の語彙化イメージ

継続概念を叙述する機能動詞構文は、前置詞を用いて 2 つの個体(x, y)間にある具体的な位置関係を示した叙述形式「x が y の～に存在する」を基盤にしている(②a)。この叙述形式の x を主語名詞句で、y を基本動詞が示す出来事(現象)E で置き換えて、「x が E の～に存在する」という抽象的な関係を示すことで、継続概念を比喩的に表している(②b)。

- ② a. BE【x, (y)^{PP}】 Hans ist im Garten. (ハンスは庭にいる。)
b. BE【x, (E)^{PP}】 Hans ist in Eile. (ハンスは“急ぎ”の中にいる → ハンスは急いでいる。)

具体的な位置関係の叙述形式を基盤として継続概念を表現する方法は、名詞が基本動詞から派生していないタイプの機能動詞構文でも使われている：

- ② a. Der Mann *sitzt im Arrest*. その男は、拘禁所の中に座っている → 拘禁されている。
b. Das Hochhaus *steht in Flammen*. 高層建築は、炎の中に立っている → 燃え上がっている。
c. Er *steht im Geruch*, radikalen Kreisen anzugehören.
彼は過激派グループに属しているという噂の中に立っている → 噂されている。
d. Der Filmstar *steht unter Vertrag* mit einer Filmgesellschaft.
その映画スターはある映画会社との契約の下に立っている → 契約している。
e. Erstklassigen Waren *sind auf dem Markt*. 一級品が市場の上にある → 市場に出回っている。

②a. の名詞 *Arrest* に対して *arretieren* (拘禁する) という動詞が存在はするが、名詞 *Arrest* が意味するのは、動詞 *arretieren* が表す出来事を名詞化した「拘禁」という現象ではなく、「拘禁所」という具体的な施設・場所である。そのため、この構文は人間と特定の施設の物理的関係を具体的に叙述したものであり、文字通りの意味は「その男は拘禁所に座っている」となる。この具体的な位置関係を表す表現から、より抽象的な継続状態が比喩的に導き出されて、「その男は拘禁中である」という意味が成立する。この段階では動詞 *sitzen* がすでに機能動詞となっているため、男が必ずしも座っていない状況に対しても *im Arrest sitzen* という表現を使うことができる。

②b. についても *flammen* (炎を上げて燃える) という動詞が存在するが、構文中にある名詞 *Flammen* は、*Flamme* (炎) の複数形であって、動詞 *flammen* の不定詞を名詞化したものではない。その結果、「炎の中に立っている」という具体的な表現を使って建物が炎上している様子を叙述している。②c. ~e. の名詞 *Geruch* (噂)、*Vertrag* (契約)⁶、*Markt* (市場) に対しても基本動詞はなく、主語名詞句が {②c. 噂の中に立っている、②d. 契約の下に立っている、②e. 市場の上にある} ことを表す構文からそれぞれ {②c. 噂の対象となっている、②d. 契約中である、②e. 市場で売り買いされている} という継続的な出来事が比喩的に導き出される。「具体的な位置関係の叙述」から徐々に抽象度を高めながら「機能動詞構文による出来事の継続の叙述」が導き出されるプロセスを図で示す。1~

III はいずれも、2つの参加者の間にある包含関係という共通のイメージに基づいている。位置関係の叙述(I)では、個体が存在する場所 *Garten*(庭)の輪郭が明確であるのに対して、IIとIIIでは輪郭を徐々に不明瞭なものにした。動詞由来の *Dienst*(勤務)による包含(III)では、動詞に由来しない *Geruch*(噂)による包含(II)よりも、さらに外界との輪郭が不明瞭になる。IIIは、内的な視点に基づく継続の叙述としてとらえており、アスペクトが文法範疇として確立しているタイプの言語においては、動詞の不完了相の形態を用いて表現するのがふさわしい。

I. 場所と個体の位置関係



Hans ist im Garten.

II. 現象による個体の包含関係



Hans steht in Geruch.

III. 出来事による個体の包含関係



Hans ist im Dienst.

5. おわりに：機能動詞構文による継続表現の意義

ここまで、継続の概念を表現する機能動詞構文の例を見てきたが、基本動詞が示す現象の継続を叙述するために、必ずしもこのような構文を使う必要はなく、単に基本動詞の能動態・受動態に必要な応じた副詞句を添えるだけで、継続の概念は無理なく表現することができる。にもかかわらず、機能動詞を組み込んだ複合的形式が使われる意義を考えておきたい。

特に、Vendler(1967)の四分類⁷による *state* と *activity* の場合には、動詞の意味が実現するために達成されるべき特別な限界点は存在しないので、出来事全体が「均質な部分」の連続体(継続形態)として把握される。その結果、*diskutieren*(討論する)のような *activity* は、継続を表す副詞句との共起が可能である。これに対して、*entscheiden*(決定する)のような *accomplishment* や *sterben*(死ぬ)のような *achievement* の場合には、動詞の意味が実現するために必ず達成されるべき限界点があるために、継続を表す副詞句と共起することは認められない。しかし、機能動詞構文 *zur Entscheidung stehen*(決断の最中である)や *im Sterben liegen*(死に瀕している)は、*stehen* や *liegen*を機能動詞として利用することによって、構文全体に継続性を組み込むことができる。その結果、限界点に至るまでの経過に焦点を当てた継続表現が可能となる：

- ③ a. Der alte Löwe *stirbt* *schon lange. 年老いたライオンは、*もう長いこと死んでいる。
 b. Der alte Löwe *liegt* schon lange im Sterben. 年老いたライオンは、もう長いこと死に瀕している。
- ④ a. Der Kongreß *entscheidet* *seit Jahren die Maßnahme gegen die globale Erderwärmung.
 その国際会議は、*何年も前から 地球温暖化対策を決定している。
 b. Die Maßnahme gegen die globale Erderwärmung *steht* seit Jahren zur Entscheidung.
 地球温暖化対策は、何年も前から 決断の最中である。

つまり、限界点に邪魔されて継続性を受け入れられない基本動詞に対して、機能動詞が組み込まれることによって、死や決着という限界点に至るまでのプロセスの段階に焦点を当てるのに相応しい表現が実現する。

継続概念を表す機能動詞構文の意義をまとめると以下ようになる。限界点を持たない基本動詞に対しては、機能動詞を使用することによってその継続性を基本動詞よりもはっきりと強調し、基本動詞が叙述する出来事に対する内的な視点を改めて提供する効果がある。限界点を持つ基本動詞に対しては、継続相の動作態様を持つ機能動詞と組み合わせることにより、限界点に至るまでの「プロセスの継続」を明確に提示することが可能になる。

参考文献

- Dowty, D.R. (1991): Thematic Proto-roles and argument selection. In: *Language* 67, p.547-619
- Dudenreduktion (hrsg.) (2009): DUDEN, Band 4: die Grammatik, Unentbehrlich für richtiges Deutsch, 8. überarbeitete Auflage, Mannheim/Wien/Zürich
- LEISS, E. (2000): Artikel und Aspekt. Die grammatischen Muster von Definitheit. De Gruyter. Berlin, New York
- Van Pottelberge, Jeroen (2004): Der am-Progressiv. Struktur und parallele Entwicklung in den kontinentalwestgermanischen Sprachen. Gunter Narr Verlag. Tübingen
- Vendler, Z. (1967): Verbs and Times. In: Vendler, Z. (ed.): *Linguistics in Philosophy*. New York
- 国松孝二ほか(編) (2000): 独和大辞典第2版、小学館
- 野上さなみ (2008): ドイツ語の不完全アスペクトについて、「ニダバ第37号」、西日本言語学会編、p.96-105

註

- 1 DUDEN (2009: p. 427) : Bei *sein* + substantiviertem Infinitiv mit *am* (*ich bin am Überlegen*) oder *beim* (*ich bin beim Aufräumen*) handelt es sich um ein **Verlaufsform** (Progressivkonstruktion), die mit der englischen Progressivform (*be dancing*) zu vergleichen, im Gegensatz zu dieser jedoch nicht voll grammatikalisiert ist. Sie wird vorzugsweise bei Tätigkeitsverben ohne Ergänzungen verwendet und ist in der gesprochenen Sprache weiter verbreitet als in der Standarddeutschsprache (Krause 2002, Zifonun et al. 1997: 1877-1880). In systematischer Hinsicht schillert sie zwischen der Kategorie Verbalkomplex und der Kategorie Funktionsverbgefüge (van Pottelberge 2001).
- 2 本稿は、科学研究費補助金の支援を受けて、研究課題「ドイツ語動詞の語彙化と動詞範疇の連動について」のもとに得られた研究成果の一部である。
- 3 *in Erwägung ziehen* は継続を表現する機能動詞構文ではないが、LEISS (2000) の挙げている例文をそのまま紹介する。
- 4 DUDEN (2009 : p.423) : Mit den Funktionsverben … *sein, stehen, bleiben* werden intransitive FVG gebildet, deren Subjekt kein typisches Agens ist, sondern eine patiensenähnliche Rolle trägt.
- 5 Van Pottelberge (2004: p.198) : Eine *im*-Konstruktion lässt sich nur mit denjenigen substantivierten Infinitiven verbinden, die einen Vorgang ohne Agens-Rolle bezeichnen, einen Vorgang also, an dem das Subjekt nicht als handelnde Instanz beteiligt ist, sondern dem es passiv unterworfen ist …… Umgekehrt erfordern die *beim*-Konstruktionen eine ausgeprägte Agens-Rolle, wobei das Subjekt die durch den substantivierten Infinitiv bezeichnete Handlung tatsächlich ausführt.
- 6 *vertragen* という動詞が存在するが、その意味の中には「契約」の概念が含まれていないため、名詞 *Vertrag* に対する基本動詞とはみなさない。

7 Vendler (1967)による動詞の四分類は、2つの基準に従って動詞を4つのグループに分類している。1つ目の基準は、動詞の意味が実現するために達成されるべき限界点の有無であり、2つ目の基準は、限界点がある場合に状態変化にプロセスを伴うか否かである。その結果、動詞は state、activity、accomplishment、achievement の4つのグループに分類されている。

機能動詞構文一覧

●機能動詞 *bleiben*

- in Anwendung bleiben
- mit jm. in Berührung bleiben/stehen
- in Betrieb bleiben
- in trauriger Erinnerung bleiben
- in Gang bleiben
- in Schwung bleiben
- in Umlauf bleiben
- in Verbindung bleiben

●機能動詞 *liegen*

- in tiefem Schlaf liegen
- im Sterben liegen
- in den letzten Zügen liegen

●機能動詞 *sein*

- in Anwendung sein
- an/bei der Arbeit sein
- in Aufregung sein
- in Bearbeitung sein
- in Behandlung sein
- in/außer Betrieb sein
- in Bewegung sein
- im Dienst sein
- im(in) Druck sein*
- im(in) Druck sein**

- in Eile sein
- in Entstehung sein
- in Entwicklung sein
- in Fahrt sein
- im/in Gang sein
- noch halb im Schlaf sein
- in Schwung sein
- in/im Umlauf sein
- in Wallung sein
- im (besten) Zug sein
- im Zweifel sein
- 機能動詞 *sein* (前置詞 *auf*)
- auf/in Arbeit sein
- auf Besuch sein
- auf großer Fahrt sein
- auf der Flicht sein
- auf dem Flug sein
- auf der Jagt sein
- auf der Suche sein
- 機能動詞 *stehen*
- in hoher Achtung stehen
- unter Beobachtung stehen
- mit jm. in Berührung stehen/bleiben
- in Brand stehen
- in Blüte stehen
- zur Debatte stehen

- im Dienst stehen
- zur Diskussion stehen
- zur Entscheidung stehen
- zur Erörterung stehen
- mit jm. in persönlichem Kontakt stehen
- mit jm. in Verbindung stehen
- in (im) Verdacht stehen
- mit/zu et. in Widerspruch stehen
- in/im Zusammenhang mit etwas stehen
- 該当する基本動詞なし
- in Aktion sein
- am/auf dem Markt sein
- in Ordnung sein
- im Arrest sitzen
- unter den Waffen stehen/sein
- auf dem Weg der Besserung sein
- jm. im Weg stehen/sein
- unter Druck stehen***
- mit etwas im Einklang stehen
- in Flammen stehen
- im Geruch stehen
- unter Vertrag stehen

* 逼迫している
 ** 印刷中である
 *** 圧がかかっている